

## 再評価結果（平成24年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局 国道防災課  
担当課長名：三浦 真紀

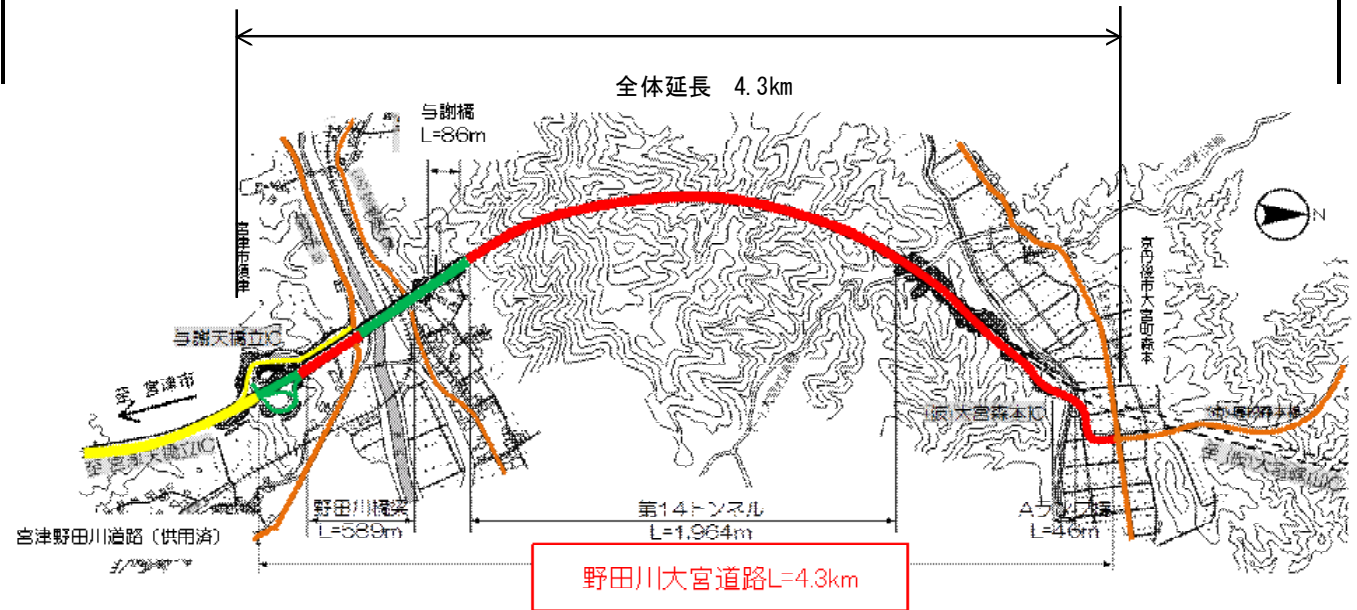
事業名 のだがわおおみや 一般国道312号 野田川大宮道路	事業区分 一般国道	事業主体 京都府
起終点 自：京都府宮津市須津 おおみやちようもりもと 至：京丹後市大宮町森本	延長 4.3 km	
事業概要 鳥取豊岡宮津自動車道は、鳥取県鳥取市から京都府宮津市に至る延長120kmの地域高規格道路であり、北近畿の広域ネットワークを形成するとともに、災害時の弱点とされたミッシングリンクとなっており迅速な避難等のために整備が必要である。当該事業は鳥取豊岡宮津自動車道の一部をとして、また現道の交通難所のバイパス道路として整備するものである。		
H17年度事業化	H11年度都市計画決定 (H18年度変更)	H21年度用地着手 H21年度工事着手
全体事業費 155 億円	事業進捗率 23%	供用済延長 0 km
計画交通量 8,900 台/日		
費用対効果 分析結果 B/C (事業全体) 4.0 (残事業) 5.0	総費用 (残事業)/事業全体 176/140 億円 (事業費：135/99億円) (維持管理費：41/41億円)	総便益 (残事業)/事業全体 705/705 億円 (走行時間短縮便益：540/540億円) (走行経費減少便益：130/130億円) (交通事故減少便益：36/36億円)
基 準 年 平成23年		
感度分析の結果 残事業について下記変動について感度分析を実施 交通量(±10%) B/C=4.5~5.5 事業費(±10%) B/C=4.7~5.4 事業期間(±20%) B/C=4.9~5.1		
事業の効果等 ○地域経済への効果 ・鳥取豊岡自動車道をはじめ、他高速道路が連結することにより、関西都市圏との連携強化が図れる ・天橋立をはじめ北近畿の点在する観光資源の周遊性を高め新たな観光資源を喚起する ・日本海側拠点港に指定された京都舞鶴港の利便性に寄与し、地域経済の活性化となる ○安心・安全の向上 ・第一次緊急輸送道路に指定 ・災害時の緊急車両の通行や物資の輸送に活用され、地域の救援・復旧が速やかにかつ確実に行え宇用になる ・屈曲した急勾配の現道をバイパスすることにより、通行車両の安全性の向上と、現道は通る歩行者の安全を図る		
関係する地方公共団体等の意見 本事業の整備については、京丹後市を始め地元自治体から早期完成を強く求める要望書が提出されている(H23.11北近畿地方拠点都市地域整備推進協議会：福知山市、舞鶴市、宮津市、京丹後市)		
事業評価監視委員会の意見 委員会に提出された資料、説明の範囲において、概ね適切に進められており、継続の必要が認められることから、現計画を継続すべきと判断される		
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 ・鳥取豊岡宮津自動車道の促進(H23.3京都府宮津与謝道路供用、他県では3工区供用、3工区着手済み) ・京都縦貫自動車道の促進(H26丹波～京丹波わち供用すれば、府北部と南部が高速道路で連結) ・緊急輸送道路に指定(H16府北部を襲った水害で既存高速道路が災害に強いことが再確認、H19に緊急輸送道路に指定された)		
事業の進捗状況、残事業の内容等 ・用地買収完了 ・事業着手可能な箇所全てにおいて、事業を進めている		
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 工事が長期間必要なトンネル、長大橋に既に着手しており、今後も順調に進捗する予定		
施設の構造や工法の変更等 詳細調査結果に基づき、トンネル断面形状を最適なものとしている		

対応方針

対応方針決定の理由

事業の必要性、重要性及び費用対効果等の投資効果が確認されているため

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。